

伊木氏3選

米子市長選 2新人破る

◇米子市長選開票結果 (選管最終)

当30327	伊木	隆司	無現③
18000	山川	智帆	無新
5455	門脇	由	無新



3選を確実にし支援者らと万歳する伊木氏(左から2人目) 20日午後10時2分、米子市東福原6丁目

現職と新人2人による8年ぶりの選挙戦となった米子市長選は20日開票され、無所属現職の伊木隆司氏(51)が自民、公明推薦、2期目を、いずれも無所属新人で前鳥取県議の山川智帆氏(47)、元自動車学校職員の門脇由氏(39)を破り、3選を果たした。投票率は45・90%で、選挙戦となった2017年の同市長選を0・19%下回った。

(黒阪友哉)

伊木氏は昨年12月に3選出馬を表明。自民、公明両党など17、21年市長選の倍以上となる41団体の推薦を受け、小学校区単位での集会や企業回りに注力した。各地域や経済団体などから幅広い支持を集めた。

選挙戦では、JR米子駅周辺整備や財政の健全化など2期8年の実績を強調。教育と子育て支援の充実を重点政策とし、交通基盤の充実や地産外需の促進など7本柱で構成した公約を訴え、支持を広げた。

山川氏は市役所本庁舎の借地解消とJR米子駅前への行政、民間機能の集約化などを主張したが及ばなかった。門脇氏は不要な支出の削減と人への投資を掲げたが、広がりを欠いた。

午後10時ごろ、伊木氏の「当選確実」が同市東福原6丁目の選挙事務所に伝わった。詰めかけた支援者らの拍手で迎えられた伊木氏は「3期目は教育、子育て支援を充実させ、地域を支える人材を育てていく」と決意を述べた。

松江は上定氏再選

任期満了に伴う松江市長選は20日開票され、無所属の現職、上定昭仁氏(52)が自民、国民、公明推薦の3選を確実にした。投票率は52・12%で、前回は8・12%を下回った。



上定昭仁氏

上定氏は昨年12月に立候補を表明し、業界団体などの推薦も得て組織戦を展開。1期目を守りと種まきの市政運営とし、成果を上げる2期目と位置付け、JR松江駅前などの都市開発や産業と観光の振興を掲げ、支持を集めた。

共産党公認の新人、村穂江利子氏(56)は市政の刷新を打ち出したが及ばなかった。無所属の新人、中澄政彦氏(37)は独自の活動で市政の透明化などを訴えたが、広がりを欠いた。

(井川広志)